

# 肢体不自由児の双方向校外学習支援システム

兵庫県立のじぎく養護学校 教諭 西尾 富夫

<http://www.hyogo-c.ed.jp/~nojigiku-yogo/h17/cec/index.html>

キーワード：テレビ会議、通信手段、ビデオレター、肢体不自由児、校外学習

## 1 研究のねらい

小学校学習指導要領では、第3学年及び第4学年、社会科の内容として、地域の人々の生産や販売について調べ、自分たちの生活を支えている人々の工夫を考えるように、と記している。

しかし、肢体不自由の養護学校では、幼児児童生徒が校外学習等で外出する際、その移動手段として車イス等の使用を余儀なくされるため、実体験や社会体験が重要な単元の学習を実施するのは困難である。

そこで、小学校社会科の調べ学習において、何度も足を運ぶことの出来ない子どもたちの「足」の代わりとして、ビデオ機器やテレビ会議システムなどのICT機器を活用することによって学習が補完され、より豊かな学力を身に付けさせられる授業が可能になるのではないかと考えた。

本研究では、現在使用できる通信機器の中で、テレビ会議を実施する上での最良の機器は何であるかを調べ、それらを授業の中でどのように活用すれば肢体不自由児の学習が深まり豊かなものとなるかを考察した。

また、テレビ会議を活用する場合、どのようなICT機器利用が学習に最良であるかを試行し、児童の反応や、教師・保護者からのアンケート等で学習の深化を確かめようとした。

## 2 企画の実際

小学校3年生の児童を対象に社会科学習単元「くらしをささえるまちではたらく人びと」の小単元「店ではたらく人びとのしごと」と「ものをつくる人びとのしごと」(大阪書籍『小学社会3・4年上』)を取り上げた。「店ではたらく人びとのしごと」の学習として商店街の和菓子屋と生活協同組合コープこうべのコープ三木緑が丘店、「ものをつくる人びとのしごと」の学習として学校近くのトマト農家に協力してもらった。

①社会で働く人々と教室の子どもたちが親密になってこそ今回の学習がより深いものになると考え、テレビ会議実施前に、初対面のあいさつをビデオ機器で録画し交流した。

②学校内の教室にいる児童と、通常校外学習で訪れるはずの施設で働く人々を結びつけ交流するのがテレビ会議である。上記の3施設の選択は、各施設の通信端末が、三者三様であることを考慮した。各施設と教室との通信手段としては、県立教育研修所のテレビ会議システムや携帯電話を利用した。

③毎年更新されている県立のじぎく養護学校のホームページに「双方向校外学習」と題してリンクを貼り、各施設で学習した後、写真や動画、児童の感想等を掲載した。

## 3 研究の成果

- ・学習の初めにビデオレターを交換したことによって、児童と各施設で働く人々との交流が深まり、テレビ会議や実体験での学習が速やかにはかどり、学習意欲が増大した。このことによってICT機器の上手な併用が大切であることが分かった。
- ・テレビ会議は、実体験学習の準備学習であり、実体験や社会体験に出かけることが困難な児童の学習を補完できたとと言える。
- ・テレビ会議は、双方向で同時的に交流できるため、児童の学習意欲を増大させるのに効果があった。
- ・テレビ会議においては、お互いの施設に通信端末があり回線が光通信であれば、光回線の使用が最良である。しかし、光回線が使用できない条件の施設であれば、画像が小さいことに不満は残るにしても、ドコモの携帯電話とテレビ電話ソフト対応のLANカードを使用するのが良い、ということが分かった。



図1 テレビ会議中の和菓子屋店内



図2 テレビ会議中の教室内の児童



図3 学校ホームページ「双方向校外学習」のサイト